●「赤心」継がん
Dream 五代塾 Sinbun（新聞）
Godai Juku
第 34 号
発行：Dream 五代塾
吹田市千里山西 5-14-17
発行責任者：理事長　川口 建

# 五代友厚と動物園
# 東京・大阪の動物園事始め

Dream 五代塾顧問 上村 修三
（五代友厚顕彰会世話人）



薩摩藩留学生・前列中央が町田久成

**明治維新後、新政府は近代国家を目指して西洋の制度や文化を積極的に取り入れた。東京では、1873 年に上野が日本で最初期の公園の一つとして指定された。園内には博物、美術関係の施設が集まり、明治の西洋文化と教育の中心地としての役割を担うこととなった。**

## 上野動物園と町田久成

1882年に博物館の附属施設として上野動物園が開園した。この上野動物園設立には、薩摩藩出身で五代友厚等が引率した1865年薩摩藩留学生使節団の一員であった町田久成（1838～97年、1867年6月帰国）が大きく影響を及ぼした。町田は渡欧中、大英博物館やケンジントン博物館などを見学している。大久保利通は、留学中の町田らに手紙（1866年9月4日付）を送っている。手紙の内容は、留学生へのねぎらいと「一年二而も早ク御帰国充分之御国用ニ相立候様、呉々乍不及奉願候（1年でも早く帰国し、十分国の役に立つよう願っております）」との激励文であった。

帰国後、町田は廃仏毀釈による文化財破壊、文化財の海外流出を苦慮し、博物館（その当時は集古館を名付けた）建設や文化財保護、調査・報告を進言する『大学献言』を1871年、太政官に提出している。その後、博物館建設のために尽力し、1972年に湯島聖堂に文部省博物館が設立され、町田はその初代館長となった。その後、1882年に上野へ移転し、現在の東京国立博物館となっている。

上野の博物館移転に伴って設けられた附属施設として上野動物園が開園した。これは日本初の本格的な動物園で自然界の標本や生きた動物を見せる場という性格を呈していた。




こうして当時の上野は、単なる行楽地ではなく、文明開化を象徴する場所となっていった。

## 大阪の文化振興と動物園

大阪では、1873年の太政官布達第16号により住吉大社境内の一部に開設された住吉公園が都市公園第1号であった。1873年に大久保利通が高師浜（現高石市）を訪れ、名勝だった松林が伐採される様子を惜しんで、松林の保護と景観保全を訴えたことが契機となり1873年、府営浜寺公園が開設された。1875年には、府庁跡地（旧大阪西町奉行所、大阪市中央区本町橋で現在のマイドームおおさか付近）に府立大阪博物場が開設され、明治政府が進めた殖産興業政策を背景に、産業・工芸・美術・物産などを紹介と知識・技術を広める役割を担う文化財展示と産業振興を兼ねた施設であった。

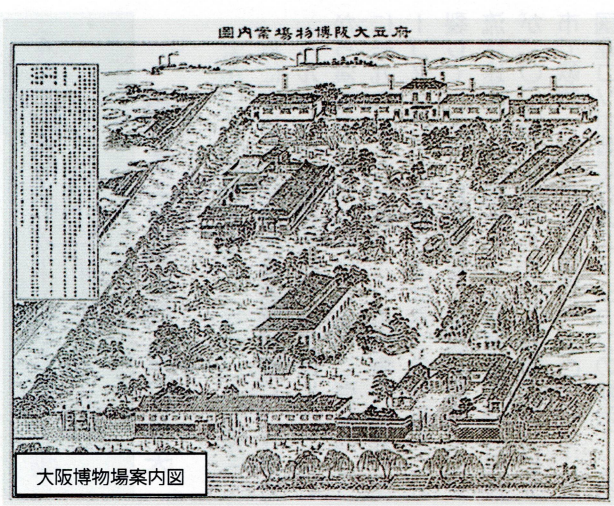
1878年、府立教育博物館を併合し、展示施設だけでなく、図書館、美術館、植物園、動物園、講演・催事の場などを備えた複合的な文化施設へ発展していった。

1884年、大阪博物場に附属動物場（動物檻）が設置された。これが今日の大阪市立天王寺動物園の前身である。当時は、現代のように動物の生態や保護を学ぶ施設というより、珍しい動物を市民が見学する博覧会・娯楽施設としての機能を有していた。当時の展示動物には、ゾウ、ライオン、トラなどがおり、大阪博物場は美術工芸品や各地の物産、盆栽、菊花なども扱っており、動物展示はその一部となっていた。

明治後期になると、大阪博物場は市民の人気を集める場所となり、1899年には約31万5千人、入場無料化後の1908年には約85万人の入場者があったという。当時は、博物館としての教育機能だけでなく、都市の大規模な娯楽・社交の場として利用されていた。

都市が拡大し、行政や文化の仕組みが整うにつれて、図書館は図書館として、動物園は動物園として、産業展示は産業展示として、より専門的な施設へ移っていくようになった。博物場にあった図書室や蔵書は、1904年に大阪図書館へ移管され、大阪図書館は現在の大阪府立中之島図書館へとつながっている。こうして大阪博物場は1913年から1914年ごろに役割を終えた。

1903年、第5回内国勧業博覧会が天王寺周辺で開催された。その跡地は後に天王寺公園として整備され、動物園を移転することになった。明治時代の大阪博物場附属動物場は、施設の老朽化や敷地の制約などから、より大規模な動物園へ発展していくこととなった。大阪府から動物の移管を受け、天王寺公園



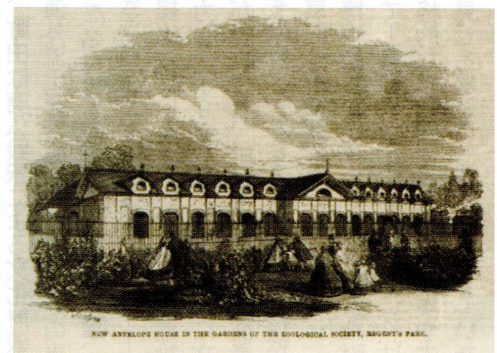
## 大阪の博物館・動物園史(明治～大正)

| 年 | 出来事 |
|---|---|
| 明治 08 年（1875 年） | 大阪博物場が旧大阪西町奉行所(旧府庁跡)に開設 |
| 明治 11 年（1878 年） | 府立教育博物館を併合し、複合的な文化施設へ発展 |
| 明治 17 年（1884 年） | 大阪博物場附属動物場を設置 |
| 明治 36 年（1903 年） | 第 5 回内国勧業博覧会が天王寺周辺で開催 |
| 明治 37 年（1904 年） | 大阪博物場の蔵書等が大阪図書館(現・中之島図書館)へ移管 |
| 明治 42 年（1909 年） | 天王寺公園が整備・公開される |
| 大正 02 年（1913 年） | 大阪博物場閉場(※1914 年閉場という説もある) |
| 大正 04 年（1915 年） | 天王寺動物園が大阪市立動物園として開園 |

内に新しい動物園が建設され、1915年1月1日、天王寺動物園が大阪市立動物園として開園した。

### 近代ヨーロッパの動物園

19世紀前後、欧州では市民社会の発展と科学への関心の高まる中、動物の展示は王侯の私的な楽しみから、公共性をもつ施設へ変化していった。フランス革命以後は、宮廷のコレクションが公的な管理に移されていった。パリやロンドンなどで、動物を分類し研究しながら公開する近代的な動物園が成立し、1794年にパリ植物園の中にあるメナジュリー、1828年には ロンドン動物園、1843年にはベルギーでアントワープ動物園が開園した。当時の動物園は、単なる見世物小屋ではなく、都市の上流層や中産階級が集まる社交の場でもあった。園内を散歩し、最新の流行を身につけ、会話や出会いを楽しんだ。19世紀の都市では、公園、博物館、劇場と並んで、動物園も教養ある余暇を過ごす場・空間を担っていた。近代ヨーロッパの動物園には、三つの場(権威の誇示〈支配者の力の表現〉、教育と研究〈動物学発展に貢献〉、社交と娯楽〈市民の交流空間〉)の機能があり、権力、学問、都市文化が交わる独特の場であった。



19 世紀のロンドン動物園

### 五代友厚の動物園視察

五代友厚の留学生西欧派遣の目的は、欧米の知識と技術を吸収し、薩摩藩の改革と日本の近代化を進める人材を育てることであった。彼らが見聞した都市施設の中には、工場、鉄道、造船所、学校、博物館だけでなく、近代的な動物園のような文化施設も含まれていた可能性が高いといわれている。動物園は単なる娯楽の場ではなく、当時のヨーロッパにおいては学術研究、帝国の威信、市民教育、公共空間の整備を象徴する施設であった。そのため、薩摩藩留学生がこうした場所を見た経験が、近代国家とは何かを肌で理解することができた。

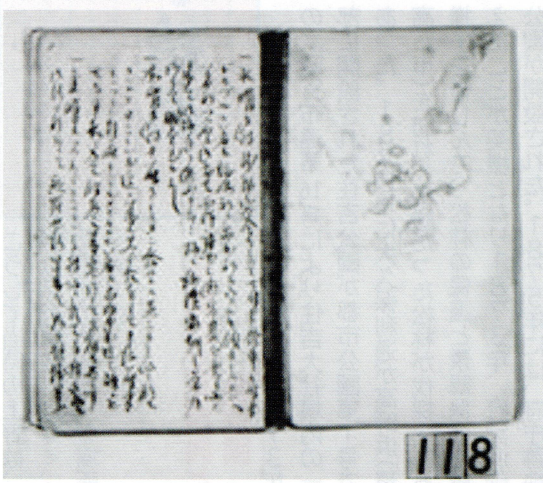
五代友厚の滞欧手記『廻国日記』には、ブリュッセルで「動物館」、パリで「動物館」、ロンドンで「英動物館」を見学したとある。五代は、島津斉彬がつくった城内にあった動物・植物を集めた「動植館内御花園」を知っていたので、動物収容施設を「動物館」と記したのであろう。

薩摩藩がモンブランと仮契約や詳細な条約書を交わし、鉱山開発や工業化に関する計画を進めていた。日付は慶応3年12月19日で、新暦では1866年2月4日であった。このリスト文書には、動物館(動物園)が出てくる。

リストの中で大阪の地に関するものでは、

① 動物館　② 川堀蒸気機関
③ 蒸気飛脚船大形外車一艘
④ 大阪と京都を結ぶ蒸気車及び「テイグラフ」があった。

五代の「動物館」の発想は、当時としては具現化することはなく、やがて「動物館」という用語も消滅した。



五代友厚(才助)の「廻国日記・慶応元年」に「動物館」の記述が見られる

## ④母の戦前のオーストラリア製半自動ピアノ

Dream 五代塾顧問　曾野 豪夫

### 五代さんは西洋音楽を楽しんだか？

秋になると音楽会の案内状が届く。今年も「バルカン室内管弦楽団」の主席ピアニストから演奏会の案内状が届いた。ご存じのように一九九八―九九年のコソボ紛争の結果、ユーゴスラビア連邦共和国は六つの共和国に分裂してしまい、共和国間(民族間)の文化的交流は途絶えた。偶々日本人指揮者柳澤寿男氏が二〇〇四年北マケドニア共和国のスコピエ市で歌劇「トスカ」を指揮し、二〇〇七年には国連コソボ暫定行政ミッションの統治下にあったコソボ交響楽団で指揮をし、その後現地で二年間常任指揮者、首席指揮者を務めた。この時柳澤氏は旧ユーゴの楽団員が離散してしまっていることを憂い、二〇〇七年旧ユーゴの音楽家を糾合してバルカン管弦楽団の設立を呼びかけて、運営されるようになった。毎年一～二回、日本で公演会が催されている。

別の話しだが、私はあるご縁でイギリスの著名な女流声楽家のごく小人数の内輪のリサイタルに二十余年前から招待されており、コロナ禍の時を除いてほぼ毎年鑑賞している。数年前のある年このイギリス声楽家のピアニストがバルカン管弦楽団の指揮者柳澤氏の夫人だった。私が六十四年前に旧ユーゴに駐在したのは、私が父と親子二代に亘って勤めていた兼松が、一九六三年から豊田自動織機製作所の繊維機械を中心に東ヨーロッパ一立派な綿紡績工場を建設することになり、その現場事務所長に任命されたからだった。二十九歳独身。ユーゴのベオグラードと西欧間でテレックスが運用されるようになったのは翌年ことで、私が勤務していた更に南へ四〇〇キ

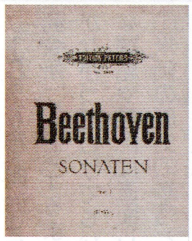
口の田舎町ヴラニエ市（人口三万人、現在は七万人）と通じたのはその八月のことだった。

私はユーゴ（セルビア）駐在中に五代友厚ゆかりの地ロンドンとマンチェスターに遊びに行き、幕末に薩摩藩の五代友厚が英欧滞在中に英国から繊維機械を購入した時の姿（苦労）を想像したのだった。ついでにシェークスピアの生地ストラッドフォードにも行ってきた。ユーゴは一九六六年に叔父が駐ユーゴ大使となったこともあり縁の深い地域である。コソボ紛争の時は、ヴラニエ綿紡績工場はNATO軍の空爆を受けて二名の従業員が亡くなっている。工場のあるヴラニエからスコピエまで一〇〇キロ、コソボまで二〇〇キロ弱の運転距離で、しばしば車でドライブした。



母慰（やす）30歳
シドニー総領事官邸にて紀元節祝賀会
昭和14年（1939）2月11日
母はピアノを弾きながらお祝い歌を唄ったのだろう

めったにゆかないが、私はオーケストラの演奏会やピアノの伴奏での独唱会等で音楽に身をゆだねながら、戦争前のシドニーでの幼い日の母のピアノ演奏に思いを馳せるのである。北船場の「いとさん」だった母が、お嬢様芸ではなく本格的に声楽やピアノを習っており、結婚してすぐに渡航したシドニーでもピアノや声楽を目の青い先生に来てもらってお稽古を続けていた。毎日のようにピアノを一人練習している時、私はピアノの側の大き目な椅子に乗って楽譜のページめくりをさせられた。バッハとショパンの楽譜を幼い私は「バッチ」と「チョピン」と呼んでいた。イギリス製の大判の楽譜で大変重たかった。今




1930年代、母慰（やす）シドニー時代の楽譜「Beethoven SONATEN」

回小さなマンション内を探したが見つからなかった。ベートーベン等数冊は見つかったが。ベートーベンの「月光の曲」のスタートから〝トン、ト、トーン〟迄位は弾けていたことがあったような…

## シドニーの自宅に『五代友厚傳』

ベージめくりに飽きてくると、す～と窓際のソファーに横になって音楽を聞きながら昼寝をした。妹も同じようなことだった。母がピアノの鍵盤をトン、トン、トーンと叩きながら毎日発声練習や高～い声の唄の稽古をしている時も近くでおもちゃで遊んだり、うたた寝をしていた。目をさまして、ふと書棚を見上げると一番上段に両親が大阪からシドニーに出発する前に挨拶した五代龍作氏（私の母慰（やす）の母（つまり義祖母）永見綾の従姉妹五代武子の夫）から船便で送って貰った同氏編『五代友厚傳』（私の生まれた昭和八年出版）や、母の又の伯父永見徳太郎の『南蛮屏風大成』等数冊が目に入った。長い間、「五代目のゆうこう（友厚）」とは誰のことか、と思っていた。



五代龍作編『五代友厚傳』



4歳頃の筆者
後ろにピアノ

一九七一～七二年、私はリスボンにJVで新設の合繊トップ製造工場の建設現場事務所長として駐在することになった。出発する前に徳太郎の書籍を買い揃えて持参したのだった。下手なゴルフも楽しんだが、博物館や美術館巡りにも精をだした。毎日の食事は昼も夜も美味しかったし、毎晩のようにファドを聞きに行ってポルトガル語の勉強をした。ワインの勉強もした。

母の九十余年前のピアノの現在の所在地は、いつかお伝えしたいと思う。

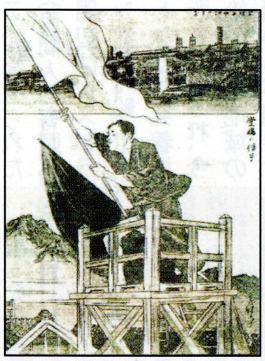
# 旗振り通信と堂島米商会所

Dream 五代塾理事長　川口　建

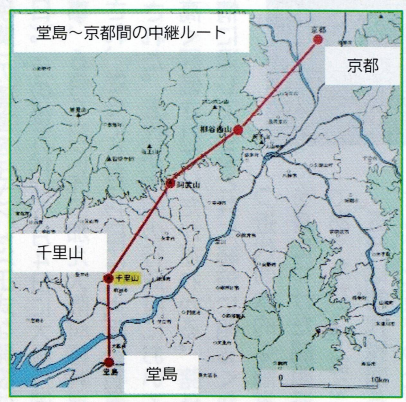
## 千里山の旗振り通信中継所

筆者の住む大阪府吹田市の千里山地区の「五里山」に、江戸から明治中期の時代、堂島の米の相場を京都に中継する「旗振り」中継所があった。堂島⬇千里山⬇茨木阿武山⬇柳谷西山⬇京都のルートで、千里山はその最初の中継地である。因みに堂島・京都間約45kmの通信速度は4分と驚異的な速さである。

五里山の標高は83mでこの地域では一番高い山で、山の名前の由来は20km先が見渡せ、見晴らしがいいことから命名されたようだ。とにかく眺望の良い山であり、旗振りには最適であったと推定できる。この地一帯は、長く桃畑として有名な地域で、花見などで賑わった時代（大正・昭和か？）もあったが、近年は一部の柿畑を残し、住宅地に変貌している。千里地区の住民からは歴史的遺跡の記憶や記録が失われないようにと吹田市教育委員会に要望し、遺跡案内板「旗振り通信（千里山）推定地、垂水西原古墳」が2025年3月に設置された。



堂島米市場から旗を振って相場を伝える様子（風俗画報第276号「浪花風俗百圖圖解（其二十八）堂島の信號」）




## 五代友厚と堂島米商会所

江戸時代に世界に先駆けた先物取引市場として栄えた堂島米市場であったが、「米価の高騰（騰貴）」と「過度な投機取引の取り締まり」が原因で市場は混乱状態にあった。主理由は、

①深刻な米価高騰と社会不安
幕末から明治新政府にかけて政情不安や混乱に伴い、米価が著しく高騰。主食であるコメの値上がりは庶民生活を直撃し、社会不安を起こす一因となった。

②投機（先物取引）への不信感
差金決済による先物取引を新政府は「実体のない空売買による賭博のようなもの」として問題視した。これが米価吊り上げを招いていると考えた。

③旧時代の制度の解体（空手形の乱発）
幕末期、財政難に苦しむ諸藩が現物米がないのにもかかわらず堂島で「空手形」を乱発し、市場が大混乱し機能低下を起こした。

明治政府は1869年（明治2年）に堂島米市場を一度閉鎖した。

しかし、これによって価格の指標が失われ、地方ごとの米価の混乱や流通の停滞を招く結果となった。大阪の経済は深刻な大混乱に陥った。1871年（明治4年）、大阪の磯野小右衛門の運動により「堂島米会所」の再興が認められた。



広重「浪速名所図会　堂じま米あきない」江戸幕府公認のお米の取引所。その熱い取引の様子を描いた
堂島米会所跡碑に掲示されている

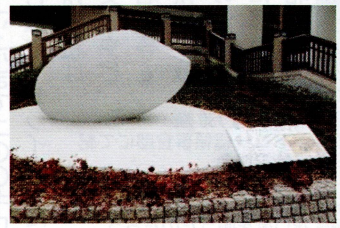
1876年(明治9年)、五代友厚が「堂島米商会所」を復興するまでの5年間、決して問題がなかったわけでもなく、むしろ極めて深刻な課題や混乱に直面していた。

①米価の歴史的暴落と地租改正で農民の危機

1875年から76年にかけ、前年来の金融逼迫と大豊作が重なり、それまでの米価が一石7～8円が4円に大暴落。同時に政府の「地租改正(税金を納める制度を米から現金に変更)」を進めていた時期であり、農村経済は壊滅の危機に瀕していた。

②市場の「器」の不備と江戸時代の旧弊

当時はきちんとした立会所(取引を行う建物)がなく相変わらず道路(寄り場)に商人が集まり、前近代的なスタイルのままで法的・組織的な整備が整っていない。



堂島米市場の跡

五代友厚はこの窮地を救うため、政府の「米商会所条例」に適合した、法的・財政的に強固な「株式会社(保証有限会社)」の仕組みを導入。近代的な「立会所(市場の建物)や帳場を新築して取引を透明化する。というような単に昔の市場に戻すのではなく抜本的な改革を断行した。堂島は江戸時代の「古い相場場」から、資本主義のルールに適合した近代的システムを備えた取引所へと生まれ変わらせた。

堂島米商会所の復興に成功した五代は、この経験を活かし2年後の1878年に「大阪株式取引所(現大阪取引所)」や「大阪商法会議所(現大阪商工会議所)」を次々と設立した。この堂島の復興は、大阪を再び日本経済の中心地(商都)へと押し上げるのに大きく貢献した。「大阪の恩人」といわれる所以である。

# 五代友厚ゆかりの地

## Dream 五代塾理事長　川口　建

### 「中之島GATEサウスピア」整備

江戸時代、古川と安治川に挟まれたこの地は、東大寺の勧進僧が庵を結んだ故事にちなみ大仏島と称し、のちに富島と呼ばれた。

慶應3年(1867)、近接する川口が開港場となったことから、税関業務と外交事務を担う川口運上所(のちの大阪税関)がここに設けられ、五代友厚が外国官権判事として赴任した。五代は大阪市立大学や大阪商工会議所の設立に尽力し、のちに「大阪の恩人」と呼ばれる活躍を見せる。

明治7年(1874)、近傍の江之子島に大阪府庁が移転、明治22年には府庁内で大阪市政が始まる。この界隈は、大阪の近代化をめざす試みが多くなされた先駆けの地であった。

近年、水都大阪の復興をめざすなかで、ここに都心と港とを連絡する新たな船着場の整備が具体化し、南岸にあることから「中之島GATEサウスピア」と命名された。

かつて外来文化の窓口であったこの地が、未来に向けて広く門戸を開く、時空を越えた水辺のゲートであり続けることを祈念する。

～施設の整備に寄せて～

建築史家／工学博士　橋爪紳也





中之島GATEサウスピア碑文を転用

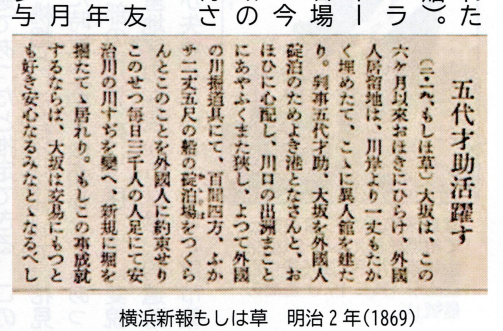
川口運上所(のちの大阪税関)・大阪開港の地碑の史跡碑移設と新しい記念碑が建立された。同時に大阪電信発祥の地、明治天皇聖躅(せいちょく)碑など一括して移設された。

場所は旧川口居留地の近くで安治川南沿い(川向かいは大阪市中央卸市場)に位置し、人通りも少なく、フェンス内にひっそりと建っていた印象であったが、「大阪・関西万博」の整備の一環で、従来より広くオープンな場所に移設された。同時にこれらの碑の歴史と未来の発展を祈念し、新しい記念碑「中之島GATEサウスピア」が建てられた(民間人の寄贈)。周辺はレストランや観光船・ボートなどの発着場所も整備され、今後のこの地域の賑わいが期待される。

五代才助(友厚)は慶応4年(1868)1月23日、徴士参与大阪外国事務掛で大阪に着任した。2月20日には大阪外国掛判事となり、川口運上所(のちの大阪税関)の運営を任された(正式な開設は5月1日)。その後五代は5月4日に大阪外国官権判事、6月5日に先に加え大阪府権判事に任命され、さらに9月19日には大阪府判事に任命された。五代が大阪の行政府においていかに高く評価されていたかがわかる。諸外国の事情に通じていると共に経済に明るくかつ近代西欧的な感覚を身につけた開明派であったからである。

五代は初代税関長として大阪での仕事の一歩を踏み出して、川口波止場の改修(7月14日大阪港開港)、川口居留地の設置・運営、松島遊廓の新設、外国人との貿易上のトラブル解決を精力的に行った。ところが五代は、明治2年7月4日に1年7ヵ月間の官職を辞した。

「今政府において



五代才助活躍す

(一・二・九、もしは草)大坂は、この六ヶ月以来おほきにひらけ、外國人居留地は、川岸より一丈もたかく埋めたて、こゝに異人館を建たり。到事五代才助、大坂を外國人誘治のためよき港となさんと、おほひに心配し、川口の出洲まことにあやふくまた狭し、よつて外國の川掘道具にて、百間四方、ふかさ二丈五尺の船の繋泊場をつくらんとこのことを外國人に約束せりこのせつ毎日三千人の人足にて安治川の川すぢを變へ、新規に堀を掘たてゝ居れり。もしこの事成就するならば、大坂は交易にもつとも好き安心なるみなとゝなるべし

横浜新報もしは草　明治2年(1869)

は、幾多の人材を擁するも、民間にはその人なし、余は今より冠を挂けて民間に下り、国家的見地に立ち、一般商工業を鼓舞奨励し、わが国、民業の振興を図り、以て国家国民の富強に努めんとす」。五代が官を辞して野に下ったとき、小松帯刀、大久保利通にその決意を語った。五代にとって大きな転機の時であった。

## Dream 五代塾活動状況

●9月25日(金)
五代友厚公顕彰墓参会・16時～16時30分
(阿倍野霊園に集合・自由参加)

●10月2日(金)
17時～ミニセミナーと懇親会(要予約)
五代友厚ゆかりの地探索・西区・安治川・木津川周辺　10時～13時
千日前線西長堀駅下車3番出口地上集合
堺ボランティア会員有志対象

●10月の定例セミナー
五代友厚ゆかりの地探索
堺市周辺を企画中

**編集後記**

明治時代から昭和にかけて活躍した漢詩家、福岡県那珂川市出身の松口月城作の『稗搗之歌』と言うのがある。

【 屋島の浜 壇ノ浦の辺り 平家の末路 亦憐れみに堪えたり
敗残隠遁す 上椎葉 山岳深きところ 炊煙を見る
♫ 庭の山椒の木になる鈴かけて　鈴の鳴るときゃ　出ておじゃれ ♫
哀話綿々栄華の夢 稗搗の里謡 今に至るまで傳う 】

宮崎県椎葉村に伝わる平家の落人伝説で、那須大八郎と鶴富姫(つるとみひめ)とのロマンスが盛り込まれた悲哀に満ちた歌が物悲しく心に響く唄だ。平家物語の冒頭の有名な『祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり、沙羅双樹の花の色　盛者必衰の理を示す　おごれる人も久しからず　ただ春の世の夢のごとし･･･』自然も社会も不穏な空気の中で、秋の夜長にふっと口ずさむのもいいのでは～。(由美子記)

(連絡先:川口建)
・Email:gogoken12345@gmail.com
・Tel:080-4497-5688
・HP:https://www.dream-godai.com ➡➡➡➡